

平成29年度 兵庫県立播磨南高等学校 学校評価 最終評価【各学年】

【平成29年度 重点目標】			【評価基準】	
ア	品格を持った生徒を育てる。		4 達成している	
イ	進路実現を可能にする学力をつける。		3 だいたい達成している	
			2 あまり達成してない	
ウ	地域の活性化に貢献し、地域になくてはならない存在となる。		1 達成していない	
			0 わからない	(保護者・学校評議員のみ)

	重点目標	重点事項	具体的取組	中間報告	最終報告	生徒評価	職員評価	保護者評価	学校評議員評価	
第3学年	ア	高校卒業後、社会にも通用する「マナーとモラル」を主体的に実践できる人間形成を図る。	その場に応じた誠実な言動がとれるようにする。	場にあふさわしい言葉遣いや服装などが意識できるように指導している。実社会を意識したマナー指導を行い、面接練習などでも強化している。	場にあふさわしい言葉遣いや服装を意識して行えるように指導してきた。また、機会あることにマナー指導を盛り込んだ。面接練習では進路指導部と連携し、多面的な角度から物事を考える力を強化した結果、物事を柔軟に対応する力の育成にも役立った。	2.9	2.9	2.9	3.0	
			挨拶の励行や交通マナーなど「当たり前のことが当たり前になるようにする」ようにする。	社会に通用するよう、提出物などの期限、交通規則を守るなどルールは守るものであると指導している。また、自ら進んで誰にでも挨拶ができるよう促している。	社会に通用するよう、提出物の期限を守る、清掃活動に責任をもって取り組むよう指導してきた。それらについては実践できるようになっている。交通ルールの遵守については不完全な所もあり、特に自転車での交通事故が懸念される。挨拶については、多くの生徒が進んで誰にでも行えるようになっている。	3.0	2.8	2.9	2.8	
	イ	個々の進路実現のため、基本的な生活習慣・学力・知識を身につけさせる。	学年と進路指導部が情報を共有し、保護者とも連携して細やかな進路指導を行う。	生徒一人一人の進路希望を学年団・進路指導部と共有し、生徒の状況変化にも速やかに対応している。必要に応じて三者面談を行い、情報を伝え、進路実現に尽力している。	生徒一人一人の進路希望を学年団・進路指導部と共有し、生徒の希望を的確に捉えるとともに、状況変化にも速やかに対応してきた。常に情報交換を行い、三者面談も行った。保護者の理解と信頼を得られ、多くの生徒が進路実現できたのではないかと。	2.8	3.1	3.0	2.5	
			進路実現に向けて明確な目標をもたせ、第一希望の実現率を高める。	各教科の予習・復習に加え、小テストを実施して、学習の基礎基本を定着させ、個々の進路目標に沿った指導を心掛けている。学習面での希望補習、出願書類の指導、面接練習をきめ細かく行っている。	各教科の予習・復習に加え、小テストを実施しし、学習の基礎基本の定着を図った。小論文指導を含めた学習面でのサポート等、個々の進路目標に沿った指導を心掛けたことが成果につながった。各担任による出願書類の指導、多くの先生方に協力いただいた面接指導により、就職試験・推薦入試では成果をあげることができた。	3.0	2.9	3.1	3.0	
	ウ	各種ボランティア活動へ積極的に参加し、地域を支える人材としての自覚と態度を養う。	一人1回以上のボランティア活動に参加する。	個々の進路を見据えつつ、クリーンキャンペーンなど一人1回以上のボランティア活動参加を促している。	ボランティア部を中心に各種さまざまなボランティア活動、地域の活動に参加した。多くの生徒がクリーンキャンペーンを含めボランティア活動に1回以上参加できた。	3.0	3.3	3.0	3.5	
			様々な活動の機会をとらえ、多くの人と出会い、コミュニケーション能力の向上を図る。	学校生活で遅刻をしない等、規則正しい生活習慣を身につけるよう指導している。社会に出た際、即戦力となるよう他者尊重の大切さ、誠実さが身につくよう指導している。	日々のホームルームや授業時において他者とのコミュニケーションが大切であると話してきた。他者尊重の思いが自己肯定感につながることで、ミスや失敗に対する誠実な対応は社会では重要であることを理解できた。	2.9	3.0	2.9	3.5	
第2学年	ア	礼節を重んじ、規律ある学校生活を送らせる。	PTOに応じた言動がとれるようにする。	場に応じた言葉遣いや、自己の意思を的確に伝えられるよう指導している。服装等の指導において継続し指導していく。	学校の中心学年として自覚と責任を持った行動ができるよう指導してきた。全般的には、多くの生徒が学年当初より成長できたように思える。	2.9		2.3	2.8	3.0
			挨拶の励行、言語力の育成。	挨拶の励行により、自他ともに認め合い、雰囲気づくりにつとめている。	校門遅刻は年間を通して一部の生徒が繰り返し遅刻していた。この生徒たちに対しては家庭と協力して改善できるよう指導する必要がある。頭髪・服装面においても一部の生徒に乱れが見られる。今後とも継続的に指導していく必要がある。			2.3	2.7	2.5
	イ	学習習慣を確立し、進路実現を目指す。	進路について具体的な目標を持つようにする。	分野別進路ガイダンスを実施し、大学、企業の方から直接話を聞ける機会を設定し、進路選択のきっかけづくりを行った。	分野別進路ガイダンスを実施し、大学や企業の方から直接話を聞ける機会を設けた。3月には大学等分野別説明会を実施し、3年生に向けて進路意識を高める今後の進路選択に活用したい。	2.6		2.6	2.9	2.5
			日々、家庭学習に取り組む習慣づくり。	日々の学習の大切さを認識させるべく指導を行っている。今後は、補習を中心にきめ細かな指導を行う。	各教科の学校、家庭での学習の大切さを認識させ、机に向かう習慣をつけるよう指導してきたが、一定の学習時間を確保できた生徒は少ないように思われる。			2.1	2.4	2.0
	ウ	学校の中心的存在として、多岐に亘る学校活動に主体的に取り組む。	各種ボランティア活動への全員参加。	生徒会執行部やボランティア部を中心としてボランティア活動に参加するよう指導している。クリーンキャンペーンにも多数の生徒が参加した。	生徒会やボランティア部を中心として1人1回以上のボランティア活動に参加するよう指導した。2回実施されたクリーンキャンペーンの両方に多くの生徒が参加した。ボランティアへの意識は高まっている。	2.6		2.8	2.8	3.3
			学校内外の活動に積極的に参加する。	学校行事や生徒会活動に主体的に参加している。引き続き指導していく。	中心学年として学校行事や生徒会活動に主体的に参加することができた。高校生活の最大の行事である修学旅行も生徒たちが主体的に行動し無事終えることができ、各クラスの団結力も高まった。			2.7	2.9	3.3
第1学年	ア	基本的な生活習慣を確立させ、集団の一員としての個のあり方を自覚させる。	その場に応じた適切な言動がとれるようにする。	場に応じた言葉遣いや、自己の意思を的確に伝えられるよう指導している。	時と場に応じた言動がとれるように指導してきた。職員室への入室には正しい手順を踏むことを義務づけ、概ねできるようになってきた。身だしなみについても注意されることなく各人で正せるように指導してきたが、十分な成果が得られたとは言えない。	3.0		2.7	2.9	2.8
			ルールの遵守とマナーの向上を図る。	挨拶の励行により、自他ともに認め合い、気持ちのよい学校生活を過ごせている。	遅刻や頭髪服装面が目立つ生徒には、個別指導し、改善するよう指導を行ってきた。今後とも登校時の交通安全指導を含め継続指導を行っていく。			2.8	2.9	3.0
	イ	進路実現に向けて、正しい学習習慣、基礎学力を定着させる。	個々の到達レベルに合わせて、きめ細やかな学習指導を行う。	進学希望者を対象とした希望補習、あるいは低学力生徒を対象とした指名補習を実施していく。	進学希望者を対象とした希望補習、あるいは成績不振生徒を対象とした指名補習を実施するなど学力向上のための努力を続けてきた。特に低学力生徒には、個別指導をするなどして、個に応じたサポートを続けてきた。	2.7		2.9	2.7	3.0
			進路目標がもてるように、HRや面談などを効果的に用いて進路指導を行う。	各教科の予習・復習に加え、提出物の重要性を認識させ、居残り指導を実施して、家庭学習に取り組めるよう指導している。	各教科の予習・復習に加え、週末課題を課したり、小テストを実施したりして、家庭学習に取り組む時間が増えるように生徒に働きかけてきた。その成果は十分ではないが、進路目標を持つ生徒が増えてきていることは次年度につながるものと評価したい。			2.8	2.8	2.8
	ウ	地域・社会に貢献する姿勢を養わせる。	様々な活動に参加することで、個々の特性を知り、それぞれの能力の向上を図る。	学校内外の行事等に積極的に参加するように働きかけ、どんな場面においても主体的な行動ができるよう指導している。	学校行事に積極的に参加するように働きかけ、その場で自分が出来ることを考えて行動するよう指導してきた。そのなかで自らを導ぶ気持ち、他者を重んじる気持ちを育むことを目指したが、十分な成果が得られたとは言えない。	2.8		2.9	2.9	2.8
			生徒会・地域が主催する各種行事、ボランティア活動に、一人1回以上参加する。	クリーンキャンペーンに多くの生徒が参加した。引き続き、地域内外の様々な活動に参加できるよう働きかけている。	積極的にボランティア活動に参加するよう促してきた。結果、多くの生徒が自ら進んでボランティア活動に参加し、特に大中遺跡まつりやクリーンキャンペーンでは地域に貢献することができた。			3.0	3.0	3.0

平成29年度 兵庫県立播磨南高等学校 学校評価 最終評価【各 部】

【平成29年度 重点目標】				【評価基準】					
	重点目標	重点事項	具体的取組	中間報告	最終報告	生徒評価	職員評価	保護者評価	学校評議員評価
総務企画部	ア	品格を持った生徒の育成	机、椅子などの備品を大切に使う。	年度当初にすべての机、椅子を点検し、古い机は可能な限り入れ替えた。講義室についても損壊の危険性がある椅子は廃棄した。掃除用具の点検や交換、補充を行った。	年度当初にすべての机、椅子を点検し、古い机は可能な限り入れ替えた。講義室の椅子についても損壊の危険性があるものは破棄した。掃除用具の点検や交換、補充を行った。	3.0	3.0	3.1	3.3
			清掃活動の充実させ、ゴミの減量と分別・リサイクルを徹底させる。	ゴミの分別やリサイクルの徹底を事ある毎に呼びかけた。同時にゴミ出しの日を指定し、ゴミの減量に努めた。また、日常の清掃活動に加え、行事前日の清掃をより丁寧に行い、校内の美化に努めた。	ゴミの分別やリサイクルの徹底を事ある毎に呼びかけた。同時にゴミ出しの日を指定しゴミの減量に努め、結果的に年度当初の見積り量の半分以上の量になった。また、日常の清掃活動に加え、行事前日の清掃をより丁寧に行い、校内の美化に努めた。				
	ウ	広報活動の充実	学校ホームページや南高ネットを活用する。	学校HPの随時更新を行い、本校の教育活動状況のタイムリーな広報に努めた。また、行事開催のお知らせや配布物の案内等を随時南校ネットで配信した。	学校HPの随時更新を行い、本校の教育活動状況のタイムリーな広報に努めた。また、行事開催のお知らせや配布物の案内等を随時南校ネットで配信した。	2.3	2.3	2.9	2.8
			学校案内、学校説明会の充実を図る。	学校説明会、芸術保育類型見学会、オープンハイスクール等の実施内容や日程についての改善や充実の努めた。	学校説明会、芸術保育類型見学会、オープンハイスクール等の実施内容や日程についての改善や充実に努めた。				
教務部	イ	進路や将来を見据えての入試、科目の設定	学校の現状を踏まえ、特色選抜入試について抜本的に見直す。	教育課程委員会・類型推進委員会などで、現状の報告や過去のデータの検証を行った。入試内容や、入学後の類型について現在検討中である。	芸術・保育類型委員会と連携を図り、現状の把握、類型の目標・目的を再検討を行った。教育課程委員会を経て、定員数を36名から40名に変更。入試実技の時間や内容の変更を行った。受検者数や新教育課程などの影響もあるが、保育類型も含めて更なる検討が必要である。	2.7	2.8	2.8	3.3
			進路を見据えての選択科目の授業内容を教科、学年で再考する。	学年・教科で再考したが、大きな変更はなかった。特に34回生以降は前年度抜本的な見直しを行い、未実施のため今後の検討課題でもある。	前年度決定内容をもとに、選択希望なども考慮し選択科目などを決定した。芸術類型の科目を現状に合ったものかつ進路に繋がっていくように科目の内容を検討し再来年度より実施する。類型・コース・科目などークラス減に伴い、数年先を見据えた改善・検討が必要である。				
	イ	基礎学力の向上・公開授業の実施	授業以外の部分でも、基礎学力向上へ向けた取り組みを実施する。	1年次にスタディサプリ、到達度テストを実施。学力の成果という部分では未検証だが、生徒の取り組みは概ね良好といえる。学年と連携し、学校全体での取り組みとしていくことが今後の課題である。	1年生でスタディサプリ、到達度テスト、朝学習を今年度初めて実施した。使い方やテキストなどの課題や改善事項は多々あるが、学年の意見を集約し、来年度以降実施に向けて準備が必要である。取り組みに関しては一定の成果は見られた。	2.6	2.8	2.8	3.0
			授業参観・公開授業を複数回実施し、各教科で意見交換を行い日々の授業に生かす。	授業参観では、前年度より改善がみられたように思う。公開授業に関しては、実施はされているが、実施後の各教科での意見交換や協議が行われていないのが現状である。公開授業や研修を行い、そのあとの協議まで行うことが課題である。	一部では積極的に公開授業や意見交換などを行っていた。一方で、教科や教員によって偏りがあり全体としては効果が薄かったように思う。学校全体としてどう取り組んでいくのか、実施時期や方法などある程度のマニュアルが必要になるかもしれない。授業に対する意識の改革も必要である。				
生徒指導部	ア	基本的な生活習慣の確立	制服の着こなし・頭髪・通学マナーなど生徒の規範意識を育む。	月初めの全校集会での服装・頭髪検査や学年での指導により、スカートなどは一時的に直すとその場を離れると元の状態に戻す生徒がいる。通学マナーについては、2学期に入り苦情電話が少なくなっているが、苦情がなくなっているわけではない。生徒には機会あるごとに交通ルールも含め、命の大切さとルールを守ることの大切さを話していく必要がある。	月初めの全校集会での服装・頭髪検査や学年での指導により、比較的制服を正しく着こなせるようになった。通学マナーについては、あいかわらず苦情電話がある。特に信号無視と並列での通行及びスマホ等のながら運転である。生徒には機会あるごとに交通ルールも含め、命の大切さとルールを守ることの大切さを話していく必要がある。	2.9	2.8	2.7	2.5
			校門指導により学年の登校時刻厳守を意識付け、時間を守る生活習慣を確立する。また自転車通学者のマナーアップ指導により交通事故を防止する。	現在も、毎日各学年ともに1桁～2桁の校門遅刻者がある。各学年の月間目標(1日平均:1年3名、2年6名、3年5名)を設定した。1・3年生は目標に近いが、2年生が増加傾向。また登校時刻のぎりぎりの登校が目立つので、安全面を考え、時間的な余裕を持った登校を心がけるよう指導したい。服装・頭髪・校門遅刻共に特定の生徒に限られてきた。教師全員で(同じ目線で)指導にあたる必要がある。	現在も、毎日各学年ともに1桁以上の校門遅刻者がある。昨年度に比べると数的には増加傾向である。中心学年の2年生に奮起を促したい。登校時刻のぎりぎりの登校が目立つので、安全面を考え、時間的な余裕を持った登校を心がけるよう指導したい。服装・頭髪・校門遅刻共に特定の生徒に限られてきた。教師全員で(同じ目線で)指導にあたる必要がある。				
	ウ	生徒の自立的・自主的活動への支援	学校行事や委員会活動において、生徒会が主体的に行動し、学校の活性化に努める。	生徒会は1・2学期現在に行われた行事に積極的に取り組んだ。委員会については、機能している委員会とあまり機能していない委員会があるので、役割を適切に分担する必要がある。	生徒会は潮風祭・体育祭・球技大会など年間を通して行事に積極的に取り組み成果をあげた。3月の球技大会、また新執行部との引継ぎに向け活動中である。	2.9	3.0	3.0	3.3
			クリーンキャンペーンなどボランティア活動を通して奉仕の精神を養うとともに地域の活性化に貢献する。	1学期に1回、2学期に1回のクリーンキャンペーン(第1回365名・第2回天候不順で中止)実施。11月4日開催の大中遺跡まつりに多くの生徒がボランティア参加予定(約100名)。その他にも様々な地域貢献活動が行われ協力している。今後の活動にも協力を呼びかけたい。	1学期に1回、2学期に1回のクリーンキャンペーン、大中遺跡まつりには多くの生徒たちがボランティア参加した。その他にも様々な地域貢献活動を企画し、呼びかけたところ、多くの生徒たちが協力した。3月26日(土)に行われるユニバーサルスポーツ交流大会にも参加予定である。来年度も多くのボランティア活動を企画し、地域に貢献させたい。				
進路指導部	ア	個々の能力・適性を踏まえた進路指導の実現	勤労観を養い、就職模試や面接指導、ガイダンスを行うことにより、学校幹旋での就職率を100パーセントにする。	学校幹旋での就職内定率は、就職総合での指導、模擬試験、面接練習の成果もあり、順調に目標に近づきつつある。指定校の求人数は年々増加傾向にあり、ほとんどの生徒が指定校求人をしていただいた企業から、第一希望の受験先を選ぶことができた。ただ、公開求人では倍率も高く難しさが現状で	就職総合や放課後などに面接練習や就職模試を繰り返し実施し、また、外部講師を招いての講習会などを行うことによって就職に向けての生徒の意識も高まった。そのため、学校幹旋での就職希望者は全員内定をいただくことができた。求人数ではここ数年で最も多くいただくことができた。	2.7	2.9	2.9	3.3
			自分の適性や興味、関心にあった進路選択が実現できるように、学年と協力し、進路ガイダンスを年2回以上実施する。	進路ガイダンスは年度当初、進路指導部でその手引を作成し、学年に依頼。その中で学年と連携しつつ、計画通りに行うことができている。また、学年独自計画のガイダンスも実施されており、それらを受けて、生徒の進路意識も高まっている。	1年生は6月に全体講演会を2回、11月に職業人講演会を実施した。また、3月にも分野別ガイダンスを予定。2年生では7月に分野別ガイダンス、10月には大学・企業見学を実施。将来の進路目標が固まってきた。1年と同じく3月に分野別ガイダンスが計画されている。今後も本校生の希望する学校を中心に講師を招き、進路意欲の喚起につなげたい。				
	イ	将来を見据えたキャリア教育と段階的な目線に基づく進路指導の実現	体験学習を通して個々の能力や適性を知り、適正な進路実現を図るために、就職・看護医療希望者のインターンシップ参加率を100パーセントにする。	2学年の就職希望者の企業インターンシップは、6企業に受け入れをしていたが、17人の生徒が実施することができた。参加生徒は熱心に取り組み、受け入れ先の企業からも好評価を頂いた。看護医療希望者のインターンシップについては、夏休みと春休みに実施されており、夏の看護医療体験では19名の生徒が参加した。これらの体験により自分の進路目標を再確認することができいいきっかけとなった。	2年生の就職希望者生徒によるインターンシップは16名が参加し、職業観・勤労意欲の育成に役立った。それに先立ち、動機づけと、責任感、意識確立にむけ、本年度も参加前に外部講師を招いてのガイダンスをはじめ、数回の事前指導を行った。生徒は熱心に参加し、インターンシップでもその成果を発揮し、各事業所でも好評価をいただくことができた。	2.6	2.8	3.9	3.5
			オープンキャンパス等の情報提供を迅速に行い、早期の目標確立、およびミスマッチを避けるためにその参加を促す。	オープンキャンパスのガイドブックは全学年に配布し、多数の生徒が長期休業中に足を運び、進路選択に役立てた。また、ポスターでの案内をコモンホールに掲示しており、休み時間や放課後に見に来る生徒もいる。また、進路指導室内の資料も生徒が閲覧しやすいよう、配置に工夫している。その中でも先輩が書いた受験報告書の利用生徒が多く、役立っている。	各学年でオープンキャンパスへの参加を促し、コモンホールへの案内掲示や案内冊子の配布を行った。実際に学校説明会に参加する生徒も多く、雰囲気や環境を知って進路目標や志望校の絞り込みができた。専門学校では、オープンキャンパスへの参加がAO入試や推薦入試の受験資格になっている学校も多く、進路決定につながった。				